

(実践報告) 抄録用紙

演題名 (全角 80 字以内)	在宅医療におけるコンサルテーション・リエゾン精神医学
演者名	亀山 有香、平尾 麻里、秋山 正史
所属	藤戸クリニック

目的

当院は 2007 年に岡山県倉敷市で介護施設に併設の有床在宅療養支援診療所として開業した。一般内科医としての訪問診療のほか、常勤の精神科専門医がいるため、認知症以外のうつ病、統合失調症、神経症等の精神疾患を合併した高齢者の訪問診療の依頼も多い。他の医療機関からの併診依頼もしばしばある。このように、身体科の診療科の患者が抱える精神的な問題に対して、当該診療科との相談と連携をベースとして診療を行う精神医学の分野をコンサルテーション・リエゾン精神医学 (CLP) という。当院が在宅医療の現場で行っている CLP の現状について報告する。

実践内容

2012 年 9 月～2014 年 9 月の 2 年間に当院が訪問診療した患者のうち、精神科的対応を要することを理由に当院に依頼があった患者について、相談表、診療録に基づいて、疾患種別、依頼内容、経過について検討した。

実践効果

上記期間で当院に精神科的対応を要する訪問依頼のうち、当院が主治医となって定期的な訪問診療を行った症例が 49 件。他の身体科の医療機関と併診という形で訪問診療した症例が 21 件。前者も後者も、導入時の薬物療法、環境調整などにより精神科的問題が解決すれば、あとは内科的全身管理や、他の主治医へ引き継いで治療終了する症例が多かった。

考察

主な治療対象が高齢者である場合、せん妄のように身体疾患の患者が一時的且つ二次的に精神的問題を発症するケースと、もともと精神疾患を持つ患者が加齢により身体疾患の合併を伴うケースがある。実際の診療は精神科的対応よりも加齢による身体診療科としての対応が多いが、導入時の診察拒否や、向精神薬の調整が必要なこともしばしばである。今後、高齢者を対象とした在宅医療の現場でも、CLP における精神科専門医の活躍が期待される。